

報告書の全体像

第1章：検討の背景

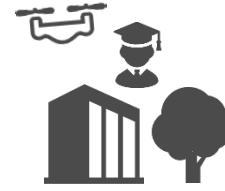
- Society 5.0 for SDGsは、4つのメガトレンドをチャンスに変え、経済成長・課題解決を図るコンセプト
- その実現には、企業や大学をはじめ課題解決イノベーションを推進する多様な主体に中長期の安定的な資金が向かい、イノベーション・エコシステム自体が自律的に進化していくことが不可欠
- そこで、現在、グローバルに拡大するESG投資の動きを捉え、それを一層進化させて課題解決イノベーションへの投資を加速し、Society 5.0の実現、そしてSDGsの迅速かつ確実な達成を図る

第2章：Society 5.0の理解の現状とその向上策

目的	Society 5.0の理解の現状を探り、その向上策を考える
手法	<ul style="list-style-type: none"> • 企業・投資家向けアンケート • 同アンケート+自然言語処理 • 3者による議論 等
結果	<ul style="list-style-type: none"> • Society 5.0は、ESG/SDGsと比べて認知度が低い • Society 5.0をESG投資に加えることで、高リターンや課題解決の対象の拡大など、様々な効果をもたらす • Society 5.0の認知・理解の向上に資するフレーズの特定 • 捉えるべき課題、社会実装を期待する技術の特定 • Society 5.0の認知・理解の向上に向けた施策の提示

第3章：経済効果・社会的効果

目的	Society 5.0が実現した場合の経済効果や社会的効果を試算し、そのメリットを明らかにする												
手法	野村(2020)* (Society 5.0に資する技術を特定し、経済モデルに導入) による試算												
結果	<ul style="list-style-type: none"> • 主な産業分野の成長機会の提示 • 全ての技術が社会実装された場合、経済全体で250兆円の成長機会(名目GDPは900兆円)が創出される試算 <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <thead> <tr> <th>産業分野(抜粋)</th> <th>成長機会(2030年)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>次世代ヘルスケア</td> <td>36.2</td> </tr> <tr> <td>ものづくりのデジタル化</td> <td>28.5</td> </tr> <tr> <td>スマートモビリティ</td> <td>21.3</td> </tr> <tr> <td>スマートリビング</td> <td>18.9</td> </tr> <tr> <td>次世代エネルギー</td> <td>19.3</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> • Society 5.0実現に必要な累積投資額は15年間で844兆円 	産業分野(抜粋)	成長機会(2030年)	次世代ヘルスケア	36.2	ものづくりのデジタル化	28.5	スマートモビリティ	21.3	スマートリビング	18.9	次世代エネルギー	19.3
産業分野(抜粋)	成長機会(2030年)												
次世代ヘルスケア	36.2												
ものづくりのデジタル化	28.5												
スマートモビリティ	21.3												
スマートリビング	18.9												
次世代エネルギー	19.3												



Society 5.0推進
企業・大学等



Society 5.0

主に社会への正の影響、
企業の中長期的な成長に着目

第4章：Society 5.0推進企業の情報開示の方向性

目的	Society 5.0に取り組む企業の情報開示の方向性を探る
手法	<p>企業・投資家アンケート+自然言語処理</p> <ul style="list-style-type: none"> • ①企業から長期ビジョン等を収集し、②それに対する投資家の評価も収集 • ①、②を自然言語処理し、投資家が求める長期ビジョン等の内容や、表現方法を抽出
結果	<ul style="list-style-type: none"> • 捉えるべきメガトレンドとして、特にスマートな生活、人口構造、気候変動等が上位 • 投資家の高評価を得た企業の長期ビジョンに含まれる3つの要素 <ul style="list-style-type: none"> ① 人を起点とする事業展開 ② グローバル課題の解決 ③ 新たな市場の創出 • Society 5.0実現に向けて企業に求められるアクションプランを整理

第5章：投資環境の整備

目的	Society 5.0実現に向けた投資の環境整備の具体案を探る
手法	<ul style="list-style-type: none"> • 3者による議論 等 <p>投資環境整備に向けた取り組み例 各主体の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> • 資金調達者は、統合報告書等へのSociety 5.0の盛り込み、プロジェクトの形成の推進等 • 資金提供者は、Society 5.0の投資原則等への適用 等
結果	<p>大学・スタートアップへの投資促進に向けた具体案</p> <ul style="list-style-type: none"> • 大学は、Society 5.0に資する技術の特定 等 • 投資家などのスタートアップの社会的意義の理解浸透 等 <p>Society 5.0に関する投資手法の具体案</p> <ul style="list-style-type: none"> • メガトレンド指数やDX指標・ESG指標の統合運用等

アクションプラン

- 経団連・東京大学・GPIFの3者は、Society 5.0 for SDGsへのコミットメントを示すとともに、その実現に向けた具体策として、Society 5.0に関するプロジェクト形成の推進や、エンゲージメントの推進、実現に向けた社会システムの形成などを図る。

ESG投資の進化

ESG



投資家

(主に社会への負の影響、リスク低減に着目)

SRI

(主に倫理規範の遵守に着目)

*野村(2020)は、21政策研究所研究主幹/慶應義塾大学教授の野村浩二氏の報告書「Society 5.0 for SDGs - 創造する未来の経済評価」